

## DE解析ソフトのOp.無しにBBIを作成する

Dual Energyの登場によってCTでも骨を抑制することにより隠れていた病変が描出可 能になったと言われています。このDual Energyによる骨抑制画像はBBI(<u>B</u>one <u>B</u>ruise <u>I</u>mage)とも呼ばれていますが、最近研究会などでDE解析ソフトが無くても標 準機能を使って代用する方法が紹介されていて、その方法を連載で解説していきます。 いまあなたがお使いの装置でもBBIは作れます!

#### ■ 臨床例

下記の臨床例は一般撮影で第1腰椎圧迫骨折(陳旧性)の進行を認めたものの、第2 腰椎に病変が認められMRと所見が一致した症例です。



倶知安厚生病院様ご提供

#### ■必要な画像データ

標準機能を使う場合でも画像は80kVと135kVで撮影したものが必要です。 スキャンモードにGG-Helicalを選択し、解析したい範囲を80kV、135kVそれぞれ撮 影します。

開始位置	終了位置	スキャン モート*	スキャン数	κv	mA	D-FOV (C-FOV)	Zキャン速度 (Total秒)	撮影スライス厚 (mm)	範囲
0.0	-500.0	DualScano		120	30				500.0
-500.0	0.0	DualScano		120	30				500.0
0.0	300.0	GG-Hel		135	R ***	320.3 (L)	0.75 (8.2)	0.5 (40.0)	300.0
0.0	300.0	GG-Hel	1	80	R ***	320.3 (L)	0.75 (8.2)	0.5 (40.0)	300.0

# DE解析ソフトのOp.無しにBBIを作成する

コンソールに標準搭載のAdd/Subtraction機能を使い3-Material Decomposition 法同様80kVと135kVの画像をその物質に合わせた比率で引き算すると目的の物質を抑 制した画像が得られる可能性があります。

2017年の論文<sup>\*</sup>を参考に、80kVと135kVのCT値を0.69:1.00の比率で引き算して みましょう。

### ■操作手順

①Autoview-m画面の表示エリアAに135kVの画像、Bに80kVの画像を表示
②[Tool2]タブ中から[Add/Subtraction]を起動

③『グループA:全て』の下の係数は1.0、『グループB:全て』の係数は0.69を入力して[実行]をクリック
Autoview-m画面



結果画像

\*参考文献: 『Osteitis: a retrospective feasibility study comparing single-source dual-energy CT to MRI in selected patients with suspected acute gout』(Torsten Diekhoffら, Skeletal Radiol. 2017; 46(2): 185–190)

※上記の内容はAquilionPRIMEV7.0での画面で、装置・バージョンにより操作が異なることがございます。 ご使用の装置での操作に関しては東芝CTアプリケーション担当までお問い合わせください。